

令和 4（2022）年度サワラ瀬戸内海系群の 管理基準値等に関する提案

国立研究開発法人水産研究・教育機構並びに共同実施機関は、令和 4（2022）年度サワラ瀬戸内海系群の管理基準値等に関する研究機関会議において、令和 5 年度以降の資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

適用する管理規則

「令和 4（2022）年度漁獲管理規則および ABC 算定のための基本指針（FRA-SA2022-ABCWG02-01）」で示された 1 系資源の管理規則を適用する。

管理基準値

- ・ 目標管理基準値は、SBmsy で 12.9 千トン
- ・ 限界管理基準値は、SB0.6msy で 5.7 千トン
- ・ 禁漁水準は、SB0.1msy で 0.9 千トン
- ・ なお、最新年（2021 年）の本系群の親魚量は 6.3 千トンである。

調整係数 β

- ・ β が 0.9 以下であれば 10 年後の親魚量は目標管理基準値を 50%以上の確率で上回ると推定された。
- ・ 2021 年の再生産成功率が過去最低値であった場合でも β が 0.9 以下であれば 10 年後の親魚量は目標管理基準値を 50%以上の確率で上回ると推定された。

その他

- ・ 再生産関係式には自己相関を考慮しないホッケー・スティック型関係式を適用した。パラメータ推定には最小二乗法を用いた。使用したデータは、令和 4（2022）年度の本系群の資源評価で推定された 1987～2021 年の加入量および親魚量である。
- ・ 目標管理基準値案での親魚量（SBmsy）で期待される漁獲量（MSY）は 5.6 千トン。
- ・ 本提案は調整係数 β を 1 から 0 の間で 0.1 刻みに検討した将来予測結果に基づく。
- ・ 本資源の資源評価結果に不確実性をもたらす要因として、資源密度が個体体重に与える影響や環境変化が回遊範囲に与える影響等が考えられる。